

第8章 教育研究等環境

本学は多摩キャンパス、後樂園キャンパス、市ヶ谷キャンパス、市ヶ谷田町キャンパスの各校地で教育・研究活動を行っており、大学基礎データで示す通り校地面積、校舎面積ともに大学設置基準で必要な面積を十分に満たす規模の校地を保持している。

本学における教育研究環境整備に関する方針としては、2015年3月に策定した「中央大学中長期事業構想」において、「キャンパス力」として「文化・景観・環境・アメニティを重視し、学生・生徒が躍動する、魅力あふれる総合キャンパスを展開する」と明示している。その内容に基づき、2015年10月に策定した「中長期事業計画 Chuo Vision 2025」の中では、多摩キャンパスと都心キャンパス（後樂園キャンパス、市ヶ谷キャンパス、市ヶ谷田町キャンパス）のそれぞれの魅力を明確化させ、多摩キャンパスは緑豊かで施設設備の整ったグローバル・キャンパスを目指し、都心キャンパスは後樂園キャンパスを中心として先進的な教育研究とプロフェッショナル養成に注力したキャンパスを目指すこととしている。また、2021年3月に策定した「中長期事業計画 Chuo Vision 2025（第2版）」においては、中長期事業計画の今期の大きな目標は、都心展開や社会連携等を実現するための二大キャンパスを各キャンパスの特性を踏まえて再編、整備することにより、本学が時代と社会の要請に応えつつ、社会的価値と存在感を向上させることにあるとしている。

これらの方針に基づく具体的な計画については、2016年4月に総合戦略推進会議のもとにキャンパス整備構想検討委員会を設置後、2016年度末にキャンパスマスタープランを作成し、大規模なキャンパス整備計画が開始された。2021年度時点における整備状況については、多摩キャンパスにおいてはグローバルな教育研究が可能となる施設設備を整えた「グローバル館」(Global Gateway Chuo)、オンキャンパスで「生活」と「教育」が融合する「国際教育寮」が、2020年4月から供用開始されている。また、学部横断的な教育研究施設となる「FOREST GATEWAY CHUO」についても、2021年4月から供用を開始した。

一方、都心キャンパスについては、2018年8月25日開催の理事会において、2023年度に多摩キャンパスの法学部を後樂園キャンパス等の都心キャンパスへ移転させることについて決定し、同年12月、文京区大塚1丁目の都有地（以下、「茗荷谷キャンパス」という）の定期借地人（40年間）となり、後樂園キャンパスと併せて移転計画の詳細及び整備について検討を開始した。更に、2019年7月8日開催の理事会において、茗荷谷キャンパスの新築及び駿河台記念館の建替えについて、8月6日開催の理事会において、大学院法学研究科、法務研究科及び戦略経営研究科の校地・校舎の変更について決定した。同じく8月6日の理事会にて基本設計の承認を得て、現在、建設が進められている。また、同年9月に都心キャンパス整備の一環として、旧JT跡地（小石川キャンパス）を取得し、2021年4月12日理事会において、当該敷地に関する活用については、法学部生や国際情報学部生を対象の中心とした体育施設や多目的室を整備する方針とした。

キャンパス整備においては、学内の教育研究現場のニーズを適切に反映した上で具現化を進めるため、キャンパス全体を俯瞰した視点で総合的に検討していく必要がある。「FOREST GATEWAY CHUO」及び駿河台記念館建替えについては、検討委員会の設置により説明会及びヒアリングを通じて整備方針の周知と要望の吸い上げが促進されたが、今後のキャンパス整備に向けても更に情報公開、情報提供及びニーズの聞き取りが求められる。

なお、キャンパスの魅力を向上させるための既存施設・設備の改善については、学生アンケ

ートで出された意見・要望等を参考に、次のとおり対応を進めている。

1) 教室設備の充実について

管財部と各学部の協力のもと、後楽園5号館ならびに多摩キャンパス3号館及び8号館の教室の机・椅子取替修繕等のリニューアルが継続して行われている。リニューアルについては単純更新にとどまらず、特に座面には布地張りの座パッドを設け、長時間の受講においても疲れにくく、集中しやすい座り心地とし、また天板の奥行きも5cm拡げることにより利用しやすいものへと更新している。今年度も継続して更新計画をしており、対象となる8105号室には学生が持ち込むデバイスの充電ができるよう一部の席にコンセントを設けるなど、オンライン授業やICTを活用した授業への対応を進めている。

学生アンケートにおける「教室内の設備（机、椅子等）」の満足度は年々上昇しており、2021年度の在学生アンケートについては、コロナ禍による影響も踏まえ、「わからない（使ったことがない）」という選択肢を新設したことにより全体の満足度は下がったが、当該選択肢を除いて算出した結果、満足度は昨年度より約10ポイント上昇している。

また、教室での授業とオンライン授業を同時に行えるよう、配信システムやwebカメラ等の整備や、教室で対面授業を受けた後に続けてオンライン授業を受講できるよう学内に専用の教室を用意し、PC用電源の確保、貸出PCの設置、PCバッテリー緊急充電用スペースの設置の整備を行っている。

更に、既存のキャンパスの有効利用ならびに、昨今の温暖化に対して学生が活動する際の安全確保を企図し、体育館の冷暖房設備の導入を順次進めている。

2) トイレの改善

学生からの改善要望が数多く寄せられているトイレについては、よりニーズに応えた環境整備を行うべく、2014年度よりサニタリー改修工事を計画し、洋式トイレの増設、暖房便座・自動手洗い水栓・温水器・洗浄便座の設置などを重点とした計画を継続して実施している。空間的にも工夫を施し、温かみのあるグレード感へアメニティを向上させ、利用者が快適な空間となるような設えとしている。また、男女の学生数比率の変化にも考慮し、場所によっては男女を入れ替え、女子のブース数を多く確保できるようにレイアウトも工夫している。加えて、確保できた空間にはパウダーコーナーを設置し、より使いやすい空間への更新を行っている。2020年度末で改修対象の約51.2%の改修を終え、今年度末までには74.4%を完了する計画としている。その結果、2021年度の学生アンケートにおける満足度は、上記と同様「わからない（使ったことがない）」という選択肢を除いて算出したところ、昨年度と比較して全体で約11ポイント増加している。

また、改修に当たっては超節水型のトイレを採用し、節水によるSDGsへの寄与へも配慮しており、更に多目的トイレの増設も行っている。

なお、この改修計画は、2022年度に完了予定である。

教育研究活動を支える図書、学術情報サービスについても、ステークホルダーの声を参考にしながら充実に努めている。本学図書館における2020年度末の蔵書数の合計は2,475,768冊であり、国内の大学図書館としては有数の規模を誇っている。電子ジャーナルについても84,211種類導入するなど、近年は電子媒体資料の充実に努めており、学生や教職員がVPN接続により学外からも電子ブック、電子ジャーナル、各種データベースを利用できる環境（非来館型サービス）も整っている。入館者数については、非来館型サービスの充実に背景に年々減少

傾向にある中で、新型コロナウイルス感染症対策としての一時閉館や利用制限の影響もあり、2020年度は大幅に減少したが、一方で電子資料の暫定的・特例的拡充対応や図書の郵送貸し出しサービス等を行うなど、来館型・非来館型サービス総体としての図書館の利用促進に取り組んでいる。また現在、中央大学教育力向上推進事業において、学生協働を中核とした図書館の活性化と利用者環境の整備に取り組んでいるところである。

学内の情報環境整備については、情報環境整備センターが中心的な役割を担っており、各学部をはじめとする学内組織と連携しながらこれを推進している。

新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年度より従来の対面形式からオンライン形式に授業を切り替える必要に迫られた。2020年度は急遽 Web 会議システム（Webex）を包括契約し導入したが、システム障害による授業中断への対応、オンライン授業の質向上を支えるための支援体制については引き続き整備していく必要がある。2021年度は Webex に加え、フェールセーフとして新たに Zoom の包括契約を行った。また、オンライン授業の実施に当たっては、オンライン授業に関する Web ポータルサイトを通じた支援や、円滑な遠隔授業の実施を支える「manaba（全学授業支援システム）」の充実、遠隔授業の実施に際して活用する情報通信環境の整備と、その人的支援体制の整備に努めている。